

令和元年度野々市市創生総合戦略推進会議 会議録（要約）

日 時

令和元年8月27日（火） 14時から

場 所

庁舎2階 201会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 議 事
 - (1) 第2期「ののいち創生総合戦略」の策定について 【資料1】
 - (2) 平成30年度ののいち創生総合戦略の推進状況について 【資料2】
 - (3) 地方創生関連交付金等（平成30年度）の効果検証について 【資料3】
- 4 委員からのご意見等
- 5 閉 会

出席委員

石川 憲一 会長
飯田 秀昭 委員
鴨宮 隆史 委員
狩谷 満春 委員
絹川 博 委員
小西 利之 委員
澤村 昭子 委員
千田 利明 委員
田中 英男 委員
西村 一正 委員
藤田 雅顯 委員

欠席委員

榎本 俊樹 委員

<p>司会 (開会)</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今より、令和元年度野々市市創生総合戦略推進会議を開催いたします。</p> <p>本日は、皆様方には、大変ご多用のところ、ご出席くださいます、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会進行を担当させていただきます、企画課長の木戸口でございます。はじめに、本日の会議ですが現在11人の委員の方が出席でございます。従いまして、野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱第6条第2項の規定により、委員12人のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>次に、開会にあたりまして、委員の皆様にご覧がでございます。</p> <p>この推進会議につきましては、開催状況を市のホームページで公表していきたいと考えており、本日の会議の内容を録音させていただきたいと思っております。発言される際には、マイクを使用させていただきますよう、お願いいたします。</p> <p>続いて、本日の会議資料を確認させていただきます。</p> <p>資料番号1番から3番まででございます。皆様よろしいでしょうか。</p>
<p>司会 (委嘱状の交付)</p>	<p>今回の会議から、ご所属の機関の人事異動等によりまして、新しく4名の方にご参加をいただいております。</p> <p>本来であれば市長の方から、委員の皆様へ委嘱状をお渡しすることになりますが、本日市長は公務が重なり出席できませんので、副市長より委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>今回から会議に参加していただく方々の席に副市長がお伺いし、委嘱状をお渡しいたします。お名前をお呼びいたしますので、その際には、恐縮でございますが、その場でご起立いただき、委嘱状をお受け取りいただきたいと存じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川労働局 白山公共職業安定所長 狩谷 満春 様 ・株式会社北國銀行 取締役 支店統括部長兼公務金融室長 小西 利之 様 ・株式会社 北國新聞社 白山支社長 田中 英男 様 <p>なお、石川県立大学 産学官連携学術交流センター長 榎本 俊樹 様は本日欠席でございますので、後日、事務局より委嘱状を交付させていただきます。</p>

<p>司会 (副市長あいさつ)</p>	<p>続きまして、本会議の開催にあたりまして、副市長より、委員の皆様にご挨拶を申し上げます。</p>
<p>副市長</p>	<p>副市長の常田でございます。本日は、ご多用のところ野々市市創生総合戦略推進会議にご参加いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>重ねて日頃から、各方面にわたりご指導ご協力を賜っておりますことに、この場を借りて心から感謝を申し上げます。</p> <p>さて、この野々市市創生総合戦略は、今年度が実施期間の最終年度でございます。これまで市では市民が集い、まち・ひと・しごとを創っていくための舞台をつくることを推進してまいりました。「学びの杜ののいち カレード」や「にぎわいの里ののいち カミーノ」、民間商業施設「1の1 NONOICHI」が完成し、舞台が少しずつ整ってきたのではないかと思います。</p> <p>これに加えまして、3つの基本戦略「しごとを創る、ひとの流れを創る、“まち”と“ひと”のつながりを創る」に、各事業をそれぞれリンクさせながら事業を展開してきたところでございます。後程評価についても担当から説明させていただきたいと思っております。既に、国から次期の総合戦略につきましても通知が来ており、当市でも今後どのように進めていくか、今回お諮りさせていただきたいと思っております。</p> <p>各委員におかれましては忌憚りの無い御意見を出していただき、有意義な会議としていただきたいと思いますようお願い申し上げます。</p>
<p>司会 (委員の御紹介)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここで改めまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。はじめに、委員の皆様をご紹介します。</p> <p>会議の会長をお願いしております金沢工業大学 名誉学長の石川 憲一会長です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野々市農業協同組合 常務理事の飯田 秀昭委員です。 ・石川県立大学 産学官連携学術交流センター長の榎本 俊樹委員は本日御欠席と伺っております。 ・株式会社 中日新聞北陸本社 北陸中日新聞白山支局長の鴨宮 隆

<p style="text-align: center;">司会 (職員の紹介)</p>	<p>史委員です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川労働局 白山公共職業安定所長の狩谷 満春委員です。 ・野々市市子ども・子育て会議 会長の絹川 博委員です。 ・株式会社北國銀行 取締役 支店統括部長兼公務金融室長の小西利之委員です。 ・野々市市女性協議会 会長の澤村 昭子委員です。 ・北陸信用金庫 野々市支店長の千田 利明委員です。 ・株式会社北國新聞社 白山支社長の田中 英男委員です。 ・野々市市商工会 副会長の西村 一正委員です。 ・野々市市連合町内会 会長の藤田 雅顯委員です。 <p>委員の皆様には、これから何かとお世話になりますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>続きまして、野々市市の紹介をいたします。</p> <p>常田 功二 副市長です。</p> <p>山口 良 総務部長です。</p> <p>北 洋一 企画振興部長です。</p> <p>肥田 千春 健康福祉部長です。</p> <p>北川 勝 土木部長です。</p> <p>大久保 邦彦 教育文化部長です。</p> <p>続きまして、事務局職員の紹介をいたします。</p> <p>企画課 課長補佐の宮前です。</p> <p>企画課 企画係の北坂です。</p> <p>企画課 企画係の久田です。</p> <p>最後に、私、企画課長の木戸口です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱 第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となることと定めておりますので、この後の報告及び議事進行につきましては、石川会長にお願ひしたいと思います。</p> <p>また、昨年度まで副会長を務めていただきました三沢 典彦委員が異動されましたことから、野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱 第5条第2項の規定により、副会長の選出についてもお願ひいたします。</p>
---	---

<p>石川会長 (会長あいさつ)</p>	<p>金沢工業大学の石川でございます。これまでに引き続きまして、野々市市創生総合戦略推進会議の会長を務めさせていただきます。</p> <p>この会議の委員の皆様方は、野々市市における「産学官民金労言」の7分野の御立場から、地方創生に関わる取り組みについて、積極的に御意見をいただきたいと思っております。</p> <p>今回の会議は今年度末で推進期間が終了となる「ののいち創生総合戦略」につきまして、今後の推進体制や昨年度までの取り組み状況に基づく評価をいただくとともに、皆様方と議論を重ねていきたいと考えております。</p> <p>さて、私ども金沢工業大学の取り組みについても、少し御紹介をさせていただきますと思います。本学は2017年12月に第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞を受賞いたしました。日本で初めて大学として「SDGs推進センター」を設立し、SDGs教育の普及に現在取り組んでおります。</p> <p>このSDGsで掲げる「誰一人取り残さない世界」の実現にもつながるキーワードとして、IoTで全ての人とモノがつながり、知識や情報が共有され、新しい価値が創造されることにより課題を解決する社会、最近これを「Society5.0」と申しております。この「Society5.0」の中身を簡単に申し上げますと、日本はロボットについては世界に冠たるところですが、このほかにAIやIoTを駆使して政府、産業界、社会のデジタル化を進めていくことによって経済成長と社会的課題の解決が両立する、いわゆるスマート社会とよく言われているものが、実現できると私どもは捉えております。</p> <p>本学ではこの未来社会「Society5.0」をけん引する人材育成に向けまして、これまで以上に企業や行政との連携を進めてまいりたいと思っております。今年度より新しい教育の取り組みに着手いたしました。例えばどうということかといいますと、問題発見解決にAIを積極的に活用できるよう、今年度から「AI基礎」、「ICT基礎」といった科目を開講いたしました。次年度の入学生からこれらを全学部・学科の必須科目とする予定です。さらに「Society5.0」で必要となる複数の専門分野、従来は機械なら機械、電気なら電気といった一つのメジャーが中心でありましたが、学部と修士をあわせた6年一貫教育、メジャー・マイナー制度と呼んでおりますが、こちらを導入していきたいと思っております。</p>
--------------------------	---

<p>石川会長</p>	<p>今後も「学」の立場から、特色ある取り組みを進め、また市とも連携を深めながら、野々市市の創生を支援してまいりたいと考えております。</p> <p>本会議が、野々市市の創生に向けた積極的な意見が交わされる場となるよう、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>続いて、先ほどご紹介のありました副会長ですが、石川県立大学 産学官連携学术交流センター長の榎本 俊樹委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>榎本委員は大変お忙しく、残念ながら本日は御欠席と承っております。</p> <p>それでは、議事の進行に移ります。</p> <p>議事1番の「第2期「ののいち創生総合戦略」の策定について」事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (説明)</p>	<p>【資料1 第2期「ののいち創生総合戦略」の策定について】</p> <p>現行の「ののいち創生総合戦略」の実施期間は、今年度、令和2年3月31日までとなります。次期の総合戦略の策定方針につきまして、今年6月の国からの通知「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を受け、国の第2期「総合戦略」において、重点を置いて施策を進める「新たな視点」を包含した第2期「ののいち創生総合戦略」を今年度中に策定してまいります。</p> <p>次期総合戦略策定のポイントですが、「ののいち創生総合戦略」の基礎調査である「ののいち創生長期ビジョン」の人口ビジョンにあたる部分については、推計人口等、必要に応じた見直しを行います。「ののいち創生総合戦略」は、現行の戦略の進捗状況等を整理し、施策や指標等の見直しを行い、さらに、国が提示する「新たな視点」を取り入れて、第2期「ののいち創生総合戦略」を策定します。</p> <p>国が提示する「新たな視点」は、一つ目に「地方へのひと・資金の流れを強化する」で、ここでの施策は、「関係人口の創出・拡大」と「企業</p>

<p>事務局 (説明)</p>	<p>や個人による地方への寄附・投資」です。関係人口とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指し、いわゆるファンづくりとなります。</p> <p>二つ目は「新しい時代の流れを力にする」で、ここでの施策は、「Society5.0の実現に向けた技術活用」と「SDGsの推進」です。Society5.0の実現により、膨大なビッグデータを人間の能力を超えたAIが解析し、その結果がロボットなどを通して人間にフィードバックされることで、これまでには出来なかった新たな価値が産業や社会にもたらされることになるとされています。SDGsとは、持続可能な開発のための17のグローバル目標と169のターゲットからなる2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国連の開発目標です。</p> <p>三つ目は「人材を育て活かす」で、ここでの施策は「人材の掘り起しや育成、開発支援」です。</p> <p>四つ目はNPOや企業等の「民間と協働する」です。</p> <p>五つ目は女性、高齢者、障がい者、外国人等の「誰もが活躍できる地域社会をつくる」です。</p> <p>六つ目は「地域経済の視点で取り組む」であり、ここでの施策は、「地域マネジメント」です。</p> <p>このように6つの視点があり、その中でも特に赤字で示す取り組みについては、重視する施策として取り扱います。なお、計画策定にあたっての今年度の会議の開催ですが、本日の会議を含め、3回を予定しております。</p> <p>別紙1、別紙2は、国からの通知等の資料であります。また、後ほどご覧ください。</p>
<p>石川会長</p>	<p>ただ今の、事務局からの説明に、ご意見やご質問などはございませんか。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>一般市民の中には相当なキャリアを積んでから退職されて、町内会活動等の市民活動を行っていただいている多くの方がおいでます。この方々は大きな財産ですから、地域ボランティアを含めて、もう一度活躍できる場をつくってほしいと思います。</p>

藤田委員	<p>また同様に、子育てをされる上で一度退職された女性が、地域づくりや社会貢献に参画する場をつくっていただくことを要望したいと思います。</p>
石川会長	<p>藤田さんの御提案はこの6つの視点に1つの視点を追加するということでしょうか。</p>
藤田委員	<p>頭の中にある大きな財産を、次の世代に渡せるようにしていただきたいと思います。</p>
石川会長	<p>藤田委員から貴重な御提案がございましたが、7つ目の視点につきましていかがでしょうか。</p>
副市長	<p>今のところ新しい視点等、国の指針をどのように市の戦略にあてはめていくかは、今後の私たち課題となります。今のお話は“人材を育て活かす”や“誰もが活躍できる地域社会をつくる”の中にも取り込むことできるかと思います。まず事務局で勉強させていただいて、そのような視点も検討していきたいと思います。</p>
石川会長	<p>それでは、次の議事の方に移ります。</p> <p>議事2番の、「平成30年度ののいち創生総合戦略の推進状況について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (説明)	<p>【資料2 平成30年度ののいち創生総合戦略の推進状況について】</p> <p>行政評価の手法を用いて、ののいち創生総合戦略の推進状況の評価を行いました。</p> <p>まず平成30年度の取り組みの18件の評価を行い、次に、これらの平成30年度の取り組みの総合結果を求めました。中ほど施策1-1の欄の「施策1-1に掲げる各事業の評価」と記載しているオレンジ色の「やや遅れている」と記載の部分です。</p> <p>次に黄色の部分ですが、施策1-1の重要業績評価指標（KPI）の評価を行いました。オレンジ色と黄色の評価部分から、施策1-1の総合評価を行っております。一番右の緑色の「やや遅れている」と記載の</p>

<p>事務局 (説明)</p>	<p>部分です。同様のことを施策1－2でも行いました。</p> <p>一番下の基本戦略1の評価も同じ見方をいたします。重要業績評価指標（KPI）の評価を行った黄色の部分と「施策1－1の評価」「施策1－2の評価」の緑色の部分から、基本戦略1の総合評価を行っています。基本戦略1の一番右のピンク色の「おおむね順調」と記載の部分です。</p> <p>このようにそれぞれ、事業、施策そして基本戦略へと評価を積み上げて総合評価を行っています。</p> <p><基本戦略1 しごとを創る 平成30年度の主な取り組み></p> <p>「創業者支援事業補助金（広報活動支援事業）」は、創業者が集客力や知名度を向上させるために取り組む広報活動を支援する補助制度で、平成30年4月に創設しました。創設にあたり、創業支援ネットワーク会議の開催や各機関への個別訪問を通じて意見交換を行い、創業者のニーズを把握し、平成30年度の補助金利用は4件でした。</p> <p>「野々市ブランド認定制度」は、地域産業の活性化を目的として、地域性や独自性、将来性などの観点から、地域内の特色ある製品のうち、特に優れたものを市が認定する制度として創設しました。平成30年度は、野々市ブランド認定制度による初の認定品として、「椿の水引アクセサリー」「野々市ヤーコン焼酎 うまいがいね」「キウイフルーツワイン」の3品目を認定しました。認定されると、野々市ブランド認定証が交付され、野々市ブランド認定マークを認定品のパッケージなどに表示することができるなどの特典があります。</p> <p>次に「野々市中央地区整備事業」は、旧来の中心市街地の都市再生整備を通じて、市民協働によるまちづくりを推進し、地域における様々な市民活動の振興を図り、ヒト、モノが出会い、交流し、賑わいを創出する環境を整備することを目指し、「学びの杜ののいちカレード」と「にぎわいの里ののいちカミーノ」を整備しました。「学びの杜ののいちカレード」においては、図書ボランティアによる「おはなし会」やジャズカメラマンの「展覧会」など、年間を通じて様々な催しを開催し、高い利用者数を維持しています。また、「にぎわいの里ののいちカミーノ」は、3月末にはオープニングイベントを開催し、多くの方にお越しいただきました。今後は従来の公民館機能に加え、市民活動や観光PRの拠点として、多くのヒト・モノの交流が生まれるよう、事業を展開してまいりま</p>
---------------------	---

事務局
(説明)

す。

平成30年度の取り組みに伴う施策の評価であります。総合戦略では、基本戦略や施策ごとの推進状況を検証するために重要業績評価指標（K P I）を設定しています。

＜「施策1－1 次代を担う産業の創出」の評価＞

「いしかわ大学連携インキュベータ（i-BIRD）入居企業のうち当市支援企業数」は、基準値が10件に対して、目標値を12件としており、平成30年度の実績値が8件であり、評価を「おおむね順調」としています。

「産学連携事業支援件数」は、基準値が0件に対して、目標値を5件としており、平成30年度の実績値が0件であり、評価を「やや遅れている」としています。市内の大学に対し、支援制度である「野々市市産学連携スタートアップ事業補助金交付制度」について説明等の広報活動による利用促進を図っていきます。

「本社機能、研究機関の移転数」は、目標値を1件としており、平成30年度の実績値が1件であることから、評価を「順調」としています。平成29年1月に企業立地促進条例を施行し、その内容を、市ホームページへの掲載等を通じて、関係団体に周知を行っています。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成30年度の取り組みの評価である各事業の評価から、右側の緑色の部分ですが、施策1－1の評価を「やや遅れている」と評価しています。

＜施策1－2 地域産業の再生と強化の評価＞

「野々市ブランド品開発支援件数」は、目標値を1品目としており、平成30年度の実績値が2品目であることから、評価を「おおむね順調」としています。今後も野々市ブランドになりうる商品づくりの開発支援に努めます。

「滞在人口」は、基準値が平日36,204人、休日43,319人に対して、目標値を平日39,000人、休日48,000人としており、平成30年度の実績値が平日36,538人、休日45,679人であったことから、評価を「おおむね順調」としております。今後とも、「学びの杜ののいちカレード」や「にぎわいの里ののいちカミーノ」を活用し、更なる賑わいを創出し、滞在人口の増加に努めます。

事務局
(説明)

「第二創業支援件数」は、目標値を5件としており、平成30年度の実績値が0件であることから、評価を「やや遅れている」としています。なお、「平成30年度の主な取り組み」でも説明しましたとおり、野々市市創業支援ネットワークの会議での意見を踏まえ、平成30年4月から新たな支援策として、創業・第二創業者を行う方を対象に広報活動支援事業に対して補助を行う「創業者支援事業補助金（広報活動支援事業）」を創設しました。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成30年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策1-2の評価を「やや遅れている」と評価しています。

<「基本戦略1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の評価>

「企業数」は、基準値が1,547社に対して目標値を1,600社としており、平成30年度の実績値は1,508社であります。経営者の高齢化、後継者不足や人材不足などによる廃業などもあり石川県、全国ともに5%を超える減少が生じているところ、本市は2.5%と減少幅が少ないことから、評価を「おおむね順調」としています。

「従業者数」は、基準値が21,842人に対して目標値を23,000人としており、平成30年度の実績値が24,167人であることから、評価を「順調」としております。

「付加価値額」は、基準値が571億3,100万円に対して目標値を600億円としており、平成30年度の実績値が774億9,800万円であることから、評価を「順調」としております。

「基本戦略1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の総合評価といたしましては、重要業績評価指標（KPI）の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「おおむね順調」と評価してしております。

<基本戦略2 ひとの流れを創る 平成30年度の主な取り組み>

「プレパパママクラス」は、妊娠、出産、育児についての正しい知識の普及及び不安の軽減を図るため、赤ちゃんの抱っこ体験等を通じて子どものいる生活のイメージを高めて、父親の育児参加を促すものであります。今年度も、実施内容を精査し、限られた妊婦期間の中で参加しやすいよう工夫をいたしました。

事務局
(説明)

「老人クラブの加入促進事業」は、高齢者が自らの経験と知識を生かし、社会参加や活動機会を充実させ、生きがいのある暮らしを実現していくことが求められていることから、老人クラブの活動内容の紹介や加入等に関する周知を行い会員数の増加に向け取り組みを進めています。野々市市老人クラブ連合会による30分以上座り続けられない取り組みである「STAND UP 301」を応援するとともに、老人クラブの活動をPRし、会員数の拡大を図るため、ベストを制作し、市内4つの老人クラブに贈呈しました。

<「施策2-1 多様な働き方の確立」の評価>

「ワーク・ライフ・バランス登録企業数」は、基準値が8社に対して、目標値を10社としており、平成30年度の実績値が9社であることから、評価を「おおむね順調」としております。継続して国や県などの各機関が発行、実施する取組内容事例集やセミナーなどでワーク・ライフ・バランスについて周知を図ります。

「女性の就業率」は、基準値が53.2%に対して、目標値を54.0%としておりますが、実績値は国勢調査の結果によるもののため、評価対象外としております。

「高齢者の就業率」は、基準値が19.2%に対して、目標値を20.0%としておりますが、こちらにつきましても、実績値は国勢調査の結果によるものため、評価対象外としています。

重要業績評価指標(KPI)の評価と平成30年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策2-1の評価を「おおむね順調」と評価しております。

<「施策2-2 野々市らしい暮らしの実現」の評価>

「子育て支援センター年間利用者数」は、基準値が37,258人に対して、目標値を42,000人としています。平成30年度の実績値は29,891人であり、評価を「やや遅れている」としてあります。未満児保育の充実や放課後児童クラブの整備を計画的に進めている等、子育て環境は向上しておりますが、今後も、各種事業を充実することにより、利用者の増加を図ってまいります。

「若年者雇用促進事業新規雇用者数」は、目標値を25人の就業として

<p>事務局 (説明)</p>	<p>おり、平成 30 年度の実績値が 0 人（述べ 3 人）です。若年者の就業の促進を図るため、国が実施しているトライアル雇用事業を活用し、市内に居住する若年者を引き続き常時雇用した事業主に対し奨励金を交付する制度ですが、求職者が少なく、人材を求めている企業が多い供給超過の状態であるため、若年者の雇用にも影響を与えているものであることから、評価を「やや遅れている」としています。</p> <p>「大学生の県内就職率」は、目標値を 10% 向上としております。金沢大学を主とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+) をいしかわ学生定着推進協議会が推進しているものの、平成 30 年度の結果が未公開のため、評価できていないものです。結果は、令和 2 年度に公表予定です。</p> <p>重要業績評価指標 (KPI) の評価と平成 30 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 2-2 の評価を「やや遅れている」と評価しています。</p> <p><「基本戦略 2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」全体の評価></p> <p>「自然増減数」は、目標値を 800 人増としており、平成 30 年度の実績値が 1,184 人増であることから、評価を「順調」としています。</p> <p>「社会増減数」は、目標値を 1,500 人増としており、平成 27 年度から平成 30 年度までの増減数の累計が 132 人増でありますので、評価を「やや遅れている」としてしております。</p> <p>「合計特殊出生率」は、基準値が 1.69 に対して、目標値を 1.70 としており、平成 30 年度の実績値が 1.69 であることから、評価を「おおむね順調」としています。不妊治療費助成、プレパパママクラス、乳児全戸訪問や産後安心ヘルパー派遣事業等を通して、妊娠から出産・子育てまでの連続的な支援を実施し、子育てしやすい環境づくりの充実に努めています。なお、人口動態保健所・市町村別統計による新たな合計特殊出生率の公表はなされていませんが、新たな合計特殊出生率の試算をしたところ、1.69 よりも良くなるものと見込んでおります。</p> <p>「基本戦略 2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」の総合評価といたしましては、重要業績評価指標 (KPI) の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「やや遅れている」と評価してしております。</p>
---------------------	---

事務局
(説明)

<基本戦略3 “まち”と”ひと”のつながりを創る 平成30年度の主な取り組み>

「野々市ふるさと交流会の充実」は、首都圏や関西圏在住の野々市市出身者や縁のある方、または、企業関係者との交流を通じて、「野々市市ふるさと交流会」の組織強化に取り組み、市の観光誘致や人材誘致、企業誘致に協力してもらうことをめざすものです。平成30年9月には関西圏で初めてとなる「ふるさと交流会 in 大阪」を開催し、64名の方に参加をいただきました。また、平成30年12月には、首都圏での交流会「ふるさと交流会 in 東京」を開催し、111名の方に参加いただきました。

「地域プロジェクトデザイン事業」は、平成30年度の地域プロジェクトデザイン事業は、地域の課題を受けて大学生がその解決に繋がる取り組みについて考え、地域や行政にない視点での課題解決を図る事業を実施しました。住民が町内会行事に参加し地域コミュニティを活性化させたいというあやめ町内会の提案に対し、学生がヤーコンを通じて交流するイベントやヤーコンの収穫時期以外に工作教室などを企画し実施したものです。学生と地域の繋がりをつくることで双方がふるさとへの愛着を生み出す一助となり、コミュニティ活動の活性化を図ることができました。

「地域防災リーダー育成・活動支援事業」は、地域防災リーダーを育成・支援することによって、自主防災組織の強化を図るものです。新たに防災士の資格を取得する方に対し資格取得に要する費用を助成しました。また、今年8月には、「野々市市防災士会」の設立総会が開催されました。防災士のスキルアップと防災士相互の連携協力体制を構築し、防災知識等の普及啓発、地域防災力の向上を図ってまいります。

<「施策3-1 生活基盤の維持と発展」の評価>

「コミュニティバス利用者数」は、基準値が年198,934人に対して、目標値を年200,000人としており、平成30年度の実績値が年214,742人でありましたことから、評価を「順調」としています。公共交通利用促進のための総合時刻表の作成や夏季限定小学生対象のコミュニティバス無料券の発行、カレード限定乗継券の試行発行などを行っておりますことから、利用者が増加しているものです。

「新規土地区画整理事業の認可」は、目標値を平成27年度認可として

<p>事務局 (説明)</p>	<p>おり、平成 27 年度に認可済みであることから、評価を「順調」としてお ります。</p> <p>「公共施設等総合管理計画の策定」は、目標値を平成 28 年度策定とし ており、平成 28 年度に策定済みであることから、評価を「順調」として います。</p> <p><「施策 3－2 安心な暮らしの確保」の評価></p> <p>「地域包括ケアシステムを構築するための拠点数」は、基準値が 0 箇 所に対して、目標値を 4 箇所としており、平成 30 年度の実績値が 4 箇所 であることから、評価を「順調」としています。いつまでも住み慣れた 地域で暮らすことができるよう、地区包括支援センターと市が連携して、 高齢者の各種相談に対応してまいります。</p> <p>「介護保険新規申請者の平均年齢」は、基準値が 81.7 歳に対し、目標 値を 82.0 歳以上としており、平成 30 年度の実績値が 80.9 歳であること から、評価を「やや遅れている」としています。年度によって多少の変 動はあるものの、おおむね 80 歳前後の状況であることから今後とも、介 護予防事業を充実し、健康寿命の延伸を図りたいと考えています。</p> <p>「消防団員定数」は、基準値が 120 人に対し、目標値を 130 人として おり、平成 30 年度の実績値が 135 人であることから、評価を「順調」と してしております。消防団員の確保のため、じょんからまつりや大学の文化 祭等で活動を紹介するなどの広報活動の実施を行うとともに、消防団員 の福利厚生のため、消防団協力の店制度を導入しています。</p> <p>重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 30 年度の取り組みの評価で ある各事業の評価から、施策 3－2 の評価を「おおむね順調」と評価し ています。</p> <p><「施策 3－3 ふるさとづくりの推進」の評価></p> <p>「野々市市に誇りや愛着を持つ市民の割合」は、基準値が 75.8% に対 し、目標値を 80% としておりますが、市民アンケートの実施がなされて おりませんので、評価ができていないものです。今後、次期総合計画策 定に向け市民アンケートを実施し数値を把握してまいります。</p> <p>「野々市会の会員数」は、基準値が 65 人に対し、目標値を 90 人とし ており、平成 30 年度の実績値が 71 人であることから、評価を「やや遅</p>
---------------------	---

<p>事務局 (説明)</p>	<p>れている」としてしています。会員同士のネットワークを活かし、若い世代を中心に未加入者への呼びかけを行い、会員の拡大を図ってまいります。</p> <p>「魅力ある学校づくり懇話会の設立」は、目標値を5小学校区としており、平成30年度の実績値は5小学校区であることから、評価を「おおむね順調」としてしています。県内の大学教員等と連絡を取り合い、大学生を学習支援学生ボランティアとして登録し、小学校の授業の中で学習支援をしていただいています。</p> <p>重要業績評価指標（KPI）の評価と平成30年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策3-3の評価を「やや遅れている」と評価しています。</p> <p><「施策3-4 石川中央都市圏の発展」の評価></p> <p>「石川中央都市圏における連携事業数」は、基準値が22事業に対して、目標値を30事業としており、平成30年度の実績値は20事業であります。 「金沢広域急病センター」の整備の完了や、協定に基づく公立図書館の相互利用の促進等、各分野で連携事業が着々と推進されていますことから、評価を「順調」としてしています。</p> <p>重要業績評価指標（KPI）の評価と平成30年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策3-4の評価を「順調」と評価しています。</p> <p><「基本戦略3 “まち”と”ひと”のつながりを創る～地域・広域連携によるまちの基盤充実～」の評価></p> <p>「地域交流・地域支え合いの拠点の形成数」は、基準値が25箇所に対し、目標値を45箇所としており、平成30年度の実績値が41箇所であることから、評価を「おおむね順調」としてしています。新たな地域の交流拠点等が形成されるよう、情報提供を行うとともに、地域サロンやコミュニティカフェの立ち上げを支援してまいります。</p> <p>「自主防災組織結成率」は、基準値が74%に対し、目標値を90%としており、平成30年度の実績値が98.14%であることから、評価を「順調」としてしています。災害時において、市民の皆様の意識として、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」との考え方が浸透してきているものと感じています。</p> <p>「石川中央都市圏ビジョンの策定」は、目標値を平成27年度策定とし</p>
---------------------	---

<p>事務局 (説明)</p>	<p>ており、平成 27 年度に策定しておりますので、評価を「順調」として います。</p> <p>「基本戦略 3 “まち” と”ひと” のつながりを創る～地域・広域連 携によるまちの基盤充実～」の総合評価は、重要業績評価指標 (K P I) の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「おおむね順調」と評価してい ます。</p> <p>ここまで、基本戦略 1 から基本戦略 3 までの施策及び戦略の評価を説 明させていただきましたが、「やや遅れている」「遅れている」のものに ついては、第 2 期ののいち創生総合戦略において引き続き取り組んでま います。</p>
<p>石川会長</p>	<p>ありがとうございました。ただ今の、事務局からの説明に、ご意見や ご質問などはございませんか。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>「基本戦略 1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」につきまし て、「企業数」は平成 30 年度実績値 1,508 社、令和元年度目標値 1,600 社、「従業者数」は平成 30 年度実績値 24,167 人、令和元年度目標値 23,000 人、「付加価値額」は平成 30 年度実績値 77,498 百万円、令和元年度目標 値 60,000 百万円となっています。これは会社が増えて、従業員と付加価 値額は減ることを令和元年度までの目標値としてめざしているように見 えてしまうのですが、それで良いのでしょうか。</p>
<p>副市長</p>	<p>評価にあたりましては、平成 30 年度の実績値と目標値との比較で評価 をしています。平成 30 年度を見ると、企業数は基準値より減少しており ますが、従業員数も付加価値額も増加しており、それを鑑みると“しご とをつくる”という面では、「おおむね順調」というような判断をしたと ころです。ただ目標値と基準値を比較してこれで良いかという、委員 がおっしゃったようなことがあるかもしれません。</p>
<p>絹川委員</p>	<p>「基本戦略 1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の「施策 1 ー 2 地域産業の再生と強化」の部分で、「野々市ブランド品開発支援件 数」の平成 30 年度実績値は 2 品目と記載がありますが、「野々市ブラン ド認定制度」で認定された 3 品のうち、1 品は支援なく完成したという</p>

	<p>ことでしょうか。</p>
事務局 (木戸口課長)	<p>「野々市ブランド品開発支援件数」につきましては開発の支援件数で、野々市ブランドの認定とは異なるものでございます。</p>
北企画振興部長	<p>「野々市ブランド認定制度」は市がブランドとして認定した件数で「椿の水引アクセサリー」、「野々市ヤーコン焼酎 うまいがいね」、「キウイフルーツワイン」の3品目です。対して、「野々市ブランド品開発支援件数」は、商品化こそされていないものの、市が開発の支援をした件数であり、椿茶とヤーコンの2品目であり、別のものでございます。</p>
小西委員	<p>「基本戦略1しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の「創業者支援事業補助金」に関連して、「施策1-1 次代を担う産業の創出」のうち「産学連携支援件数」は「やや遅れている」、「施策1-2 地域産業の再生と強化」の「第二創業支援件数」も「やや遅れている」の評価となっています。我々金融機関では、創業者支援に相当な力を入れておりますが、各金融機関との連携は現状としてどのようなかたちになっておりますか。</p>
北企画振興部長	<p>金融機関の方々も入っていただく創業支援ネットワーク会議を進めております。金融機関との連携はこれまで以上に進め、今後も創業支援を行ってまいりたいと思っております。</p>
小西委員	<p>積極的に我々も働きかけたいと思いますし、御相談をいただければ、「やや遅れている」というような分野もカバーできるのではないかと思います。</p>
北企画振興部長	<p>本年4月に開館いたしました「にぎわいの里ののいち カミーノ」のシェアキッチンやシェアオフィスを利用した方の中から、創業された方も出てきています。ぜひ連携を強化しながら、金融機関の方の協力を得たいと思っております。</p>
飯田委員	<p>地域の交流や関係人口などに関わってくるのではないかと思います</p>

<p>副市長</p>	<p>が、野々市市は子どもを育てるための公園などが、近隣市町と比較すると、遅れているのではないかと思います。そういったものに対して、目標値はあるのでしょうか？</p> <p>また会議の内容はハード面が多いと思いますが、野々市市に住んで良かったと感じてもらえる部分、緑や農業などに関わるとは思います。そのような点は今後どう行っていくと考えておいでますか。</p> <p>野々市市創生総合戦略は、“しごと・ひと・まちとひとのつながり”の3つ基本戦略に重きを置いた計画となっています。市では、並行して野々市市総合計画を策定しており、それは広い分野を網羅しており、市民一人当たりの公園・緑地面積の目標値もございます。</p>
<p>北川土木部長</p>	<p>都市公園については127か所開設しています。野々市市は土地区画整理事業にて市街化区域を拡張しており、区域面積の3%を公園や緑地とすることが義務付けられています。</p> <p>北西部の土地区画整理事業においてはつばきの郷公園を整備し、家族連れでにぎわっており、大変人気です。近隣市町の事例も参考にしながら、今後にもぎわいが創出できるような楽しい公園を整備していきたいと思っております。</p>
<p>石川会長</p>	<p>それでは、最後の議事に移ります。</p> <p>議事3番の「地方創生関連交付金等（平成30年度）の効果検証について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局から説明されます評価の内容をご確認いただいた上で、最後に委員の皆様から、「ののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であったかどうか」の評価を頂きたいと思っております。</p>
<p>事務局 (説明)</p>	<p><資料3 地方創生関連交付金等（平成30年度）の効果検証について></p> <p>野々市の創生を実現するために、地方創生関連の交付金等を活用して事業を実施しており、その達成状況について、外部有識者であります野々市市創生総合戦略推進委員の皆様にご効果の検証をしていただくこととなっています。</p> <p>資料3-1から資料3-3の3件は地方創生推進交付金で、資料3-</p>

事務局
(説明)

4の1件は、地方創生応援税制いわゆる企業版ふるさと納税の制度を活用した事業であります。今回、野々市市創生総合戦略推進委員の皆様へ評価をいただくところは、全事業において、事業全体の評価はもとより、最終的には、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」という黒い太枠の部分となります。

＜資料3—1 「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業＞

この事業は野々市市単独で交付金の申請を行ったもので、地方創生の深化のすそ野を広げる取組である横展開タイプの事業を、平成28年8月の地域再生計画の認定から平成31年3月までの3ヶ年度で実施してきました。

事業総額は67,000千円であり、平成30年度の事業費の10,017千円のうち、対象事業額の1/2にあたる4,087千円の交付金を受け入れております。

事業概要は、地域の安全向上の核となる新たな組織の設立に向け、拠点避難所の環境整備をはじめPR活動など、防災情報の啓発や防災力向上に関する事業を実施するものです。また、高齢者の日常の助け合いを充実するとともに、地域の課題を自分たちで解決していく仕組みづくりに取り組むことで、新たな地域コミュニティの構築や地域の活性化を図るものです。

実施内容は、「外国人向け野々市市防災情報啓発事業」は、市内在住の外国人に避難所等の情報を周知するため、災害に応じた避難場所が分かるような避難所看板を設置しました。「拠点避難所防災力向上事業」は、総合防災訓練において、市民と関係機関が意見交換することで、各避難所に設置する防災用資器材を取り決めるなど、市民への防災意識を高めるものです。平成30年度は、総合防災訓練の一環である非常参集訓練を8月に実施し、一時的避難場所に参集した市民の方は7,588人、職員は293人が参加しています。

次に、交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）と実績値は、KPI①の「自主防災組織が行う防災訓練の開催割合」の平成30年度の達成率は102.0%、KPI②の「消防団員数」の平成30年度の達成率は91.5%、KPI③の「地域包括ケアシステム構築に携わる活動団体数」の平成30

<p>事務局 (説明)</p>	<p>年度の達成率は 70.0%であることから、事業の効果といたしまして、「地方創生に相当程度効果的であった」としています。</p> <p>このような取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断しています。</p> <p><資料 3-2 百万石の伝統を活かした文化・観光プロジェクト></p> <p>この事業は石川県が中心となり申請を行っている、県内全 19 市町が対象の県広域連携の事業で、交付金対象事業額は 40 万円です。</p> <p>事業概要は、全体としては石川県と県内全 19 市町と金融機関等が連携して、地域における魅力ある雇用の場の創出や交流人口の拡大をめざすものです。野々市市関連の事業概要は、小松空港周辺 7 市町において、旅行商品の造成・販売を支援することで、地域の活性化・地域の魅力に繋げ、あわせて、小松・羽田便の活性化を図るものです。</p> <p>実施内容は、航空利用観光誘客促進事業として、市から小松空港協議会に負担金を支払い、小松空港協議会が小松・羽田便を利用し、宿泊を伴った体験等の旅行商品を造成するものです。喜多家住宅の見学が旅行パッケージに含まれており、「早春の古都金沢・世界遺産五箇山・白川郷 2 日間」には旧魚住家住宅の見学が旅行パッケージに含まれております。</p> <p>交付対象事業の重要業績評価指標 (K P I) と実績値は、こちら県が設定し、県より実績値を報告いただいておりますが、K P I ①の「石川県内への観光入込客数」の平成 30 年度の達成率は 92.7%、K P I ②の「兼六園周辺文化施設の年間入館者数」の平成 30 年度の達成率は 131.0%、K P I ③の「金沢港へのクルーズ船寄港数」の平成 30 年度の達成率は 180.8%であることから、事業の効果として、「地方創生に相当程度効果があった」としています。</p> <p>実績値を踏まえた今後の方針は、更なる地域活性化・地域の魅力向上に繋げることと合わせて、小松空港の利便性を維持するため新たな利用者の確保と現在の利用者の継続した利用を他の市町と連携して図っていく必要があるため、今後も事業を継続すべきであるとしています。</p> <p>このような取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断しています。</p>
---------------------	---

事務局
(説明)

＜資料3-3「旧北国街道を舞台とした「野々市版コミュニティ・リビング」創出プロジェクト」＞

この事業は野々市市単独で交付金の申請を行ったもので、地方創生の深化のすそ野を広げる取組である横展開タイプの事業を、平成29年11月の地域再生計画の認定から平成32年3月までの3ヶ年度で実施していくものです。地域再生計画上の事業総額は46,430千円で、平成30年度の交付対象事業額の20,652千円の1/2にあたる10,326千円の交付金を受け入れています。

事業概要は「学びの杜ののいちカレード」や「にぎわいの里ののいちカミーノ」といった新たな拠点施設を北国街道でつなぎ、文化会館フォルテや郷土資料館を含むエリア全体としてまちづくりをすることで、にぎわいを創出して交流人口を増やし、定住人口の増加及び産業の振興につながる本市の創生をめざすものであります。

実施内容は、「石川県立大学との連携による特産品の開発研究」として、市花木の椿の葉からの抽出物を用いたお茶の開発の研究や市の特産品であるヤーコンの研究を学官連携により行っています。

「まち・ひと・にぎわいセミナーの開催」は、市の魅力を生かした野々市ブランド化のため、地域づくり・ブランドづくりを実践している方を講師に全3回のセミナーを開催し、287名の方に参加をいただいています。「観光PRパンフレットの製作」は、市を効果的に宣伝するツールとしてパンフレットを制作いたしました。

「野々市ブランド認定制度の確立及び認定」は、先ほども触れましたが、地域産業の活性化を目的として、地域性や独自性、将来性などの観点から、地域内の特色ある製品のうち、特に優れたものを市が認定する制度を創設し、平成30年度は3品目を認定しました。

「ファシリテーター養成講座の開催」は、市民協働のまちづくりを一層進めるため、様々な人や組織の力、アイデアを活かす進行役の育成に必要な知識や技術を身に着ける講座を開催しました。講座には64名の方が参加されました。

「市民活動支援に関する研究及びアドバイザー業務」は、金沢大学准教授に他市の市民活動センター等を視察研究していただき、市民活動団体の代表者や金沢工業大学職員で構成される検討委員会や市民協働の推進に関する委員会において、本市の市民活動推進のあり方についてのア

<p>事務局 (説明)</p>	<p>ドバイザーとして助言していただきました。</p> <p>「事業企画推進員の公募及び養成講座」は、市民の皆様が地域の魅力を引き出すアイデアを持ち寄り、自由な発想で催事の企画・運営を行っていただく事業企画推進委員を7月に募集しました。17名の方が応募され、2回の養成講座を受講されています。13名の方が事業企画推進委員として、「にぎわいの里ののいちカミーノ」のオープニングイベントの際にブースを設け、企画・運営をされています。</p> <p>重要業績評価指標（KPI）と実績値は、KPI①の「休日の滞在人口」の平成30年度の達成率は175.6%、KPI②の「まちづくりを促進するファシリテーター養成講座の受講者が企画した事業数」の平成30年度の達成率は200%、KPI③の「野々市市観光物産協会会員」の平成30年度の達成率は210.0%でありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に非常に効果的であった」としています。</p> <p>実績値を踏まえた今後の方針は、人材育成の各種講座やエリアを活用したイベントを継続して開催した結果、本事業の認知度とともに期待も高まっており、政策間連携や関係団体との連携を強化しながら目標の達成を目指していくため、今後も事業を継続すべきであるとしているところです。</p> <p>これらの取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であった」と判断しているところでもあります。</p> <p><資料3-4「賑わい創出による創業マインドの育成計画」></p> <p>この事業は地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）にかかる事業で、平成29年3月の地域再生計画の認定から令和2年3月までの3ヶ年度で実施します。事業総額は136,042千円で、平成30年度の事業費の58,496千円に対して、11,000千円の寄附を71法人からいただいております。</p> <p>事業概要は「学びの杜ののいちカレード」に、数多くの創業に関する蔵書の配置を行い、また相談会や講座を開催するなど市内外の創業希望者に支援を行います。また、他自治体の図書館との連携により、市外の人を呼び込み、市の魅力を広く伝え、移住・定住につなげ、この内容に賛同いただける企業から寄附を募るものです。</p> <p>実施内容は、「図書の調達冊数」は、創業に関する図書としてビジネス</p>
---------------------	---

<p>事務局 (説明)</p>	<p>支援図書、地域の課題解決に役立つ図書等、平成 30 年度は 16,992 冊を調達しています。創業希望者が関連する図書を手に取りやすくするため、創業に関する図書はビジネス支援コーナーに配架し、市内外の創業希望者に利用いただいています。</p> <p>「子どもの読書推進につながる取組み」は、子どもを対象とした絵本や紙芝居の読み聞かせ等を行うおはなし会を 78 回開催し、2,000 名の子どもに参加していただいています。</p> <p>「地域の課題に役立つ情報を提供する取組み」は、市民歴史講座を 5 回開催し、136 名の方に参加していただき、地域の課題に役立つ情報を提供しています。</p> <p>「創業支援事業」は、野々市市創業支援ネットワークが主体となり、創業に必要な知識を学び、創業を身近に感じてもらうために創業塾を開催しました。また、創業塾の一步手前となる若者向け創業セミナーを開催しています。</p> <p>次に、対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値は、K P I ①の「創業知識習得講座参加人数」の平成 30 年度の達成率は 76.0%、K P I ②の「講座参加者のうち創業した人数」の平成 30 年度の達成率は 120.0%、K P I ③の「市立図書館利用者数」の平成 30 年度の達成率は 167.5%、K P I ④の「市外利用登録者数」の平成 30 年度の達成率は 291.2%であることから、事業の効果は、「地方創生に相当程度効果があった」としています。</p> <p>実績値を踏まえた今後の方針は、創業塾や創業セミナーを開催することで、創業の実現につながっていること、また、同じ志を持った仲間づくりにもつながっていることから、次代を担う创业者の掘り起しや育成に取り組んでいくとともに、これまで以上に市民の満足を得られるような図書の選定、催しの開催に努めていくためにも、今後も事業を継続すべきであるとしています。</p> <p>このような取組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」は、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断します。</p>
<p>石川会長</p>	<p>ただ今の、事務局からの説明に、ご意見やご質問などはございませんか。</p>

藤田委員	資料3-4「賑わい創出による創業マインドの育成計画」につきまして、創業支援をした事業で創業された方々は多くいらっしゃるのですか。
北企画振興部長	<p>創業塾で19人が創業した人は6人という実績で、様々な業種の方に創業していただいております。</p> <p>先ほどの「基本戦略1しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の説明の中でもありましたが、創業者に対しての支援として平成30年4月より「広報活動支援事業」を開始し、平成30年度には4件の利用がございました。このような創業後の支援体制も構築しています。</p>
藤田委員	資料3-1「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業」につきまして、自主防災士の育成ということで、市は防災士の育成を推進していただけるのでしょうか。
山口総務部長	<p>年々育成する人数も増えており、平成30年度は34名の方を支援し、合計で139名の方を市で育成しました。この他に、自主的に防災士の資格を取得された方も企業や個人として取得するなどで54名おいでて、合計219名となっています。</p> <p>市で防災士を加えた新たな組織をつくろうと立ち上げたのですが、市民の方が積極的に議論を進めてくださり、8月に防災士会が設立した経緯もございます。災害時には、公助も大切ですがやはり共助も大切ですので防災士の方と連携しながら、地域防災力の向上に努めたいと思います。</p>
藤田委員	この会議とは本質が外れるかもしれませんが、防災士の育成のお話がありましたが、防災士が増えてくると、かかる費用もあろうかと思いますが、市としての補助はあるのでしょうか。
山口総務部長	防災士会もできたところですので、関係団体も含めまして、地域の方がどのような支援を望むのか、ご意見をいただきながら、検討してまいります。
石川会長	これらの事業が「ののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であった」

<p>石川会長</p>	<p>かという点のご判断をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p> <p>ありがとうございます。それでは有効とあつたとさせていただきます。これで全ての報告および議事が終了しました。</p> <p>最後に、各界からお集まりいただいております委員の皆様から、それぞれのお立場から、地方創生に係る取り組みやお考えなどがございましたら、御紹介いただきたいと思います。</p>
<p>田中委員</p>	<p>関係人口の創出・拡大に関しまして、以前、地域に人が来る理由は、観光地があること以上に、人と人だという話を伺いました。深い関係がなくともこの人に会いたいという、人と人とのつながりが大切なのかと思います。そのようなまちづくりに携わる人材の育成が、今後大切になってくるのではないかと思いますので、第2期の総合戦略で、そのような視点が入れば良いと思います。</p>
<p>澤村委員</p>	<p>新しい視点において「誰もが活躍できる地域社会をつくる」とありますが、最近はお一人で子育てされている方もたくさんおいでだと思います。仕事があれば良いというわけではなく、子どもさんがいらっしゃって、普通の家庭と同じように生活できるような待遇がこれから大切ではないかと思います。</p> <p>またこの会議に皆さんはそれぞれの機関の代表として参加しておいでだと思いますが、このような席に出てくるような立場の女性の育成が、どのようなものか知りたいと思います。</p>
<p>小西委員</p>	<p>私どものところでも女性の働き場所を重視しており、女性管理職や支店長も30～40名おりまして、将来的には、役員にもと話をしております。新卒の採用も女性が強く、60名採用した中40名が女性で、男性と同じ仕事をしております。いずれこの席に女性が座る時代がやってくると思います。</p>
<p>絹川委員</p>	<p>野々市市は人口が増え、子どもも増加していますが、待機児童がいな</p>

<p>西村委員</p>	<p>いことを嬉しく思っております。またそれに対して対策も練っておられ、新たに保育園建設の話も出ているかと思っておりますので、そちらも決まったことがあれば教えていただければと思います。</p> <p>野々市市においては、商売をされる方がたくさんおいでて、暮らしやすいのですが、地元の商業の方はいなくなる一方で、都会の企業が進出してきておいでます。我々商工会としましても、古くからいらっしゃる方を応援しているのですが、大きいところに持っていかれるのが現状でございます。先般テレビで、市内に世界一のジェラートを作っておいでる店があると拝見しました。そういった方も市のブランドや目玉として応援していけば、市の知名度が上がるのではないかと思います。</p> <p>地方創生の一貫として、外来者であれ地元の方であれ、現状を踏まえ応援していければと思います。子どもさんもたくさん生まれているようなので、みなさんと知恵をしぼりながら、人口6万人をめざし、施策を検討したいと思っております。</p>
<p>石川会長</p>	<p>先ほどCOC+の話がでてきましたが、U J Iターンの3つのパターンがありますが、野々市市に住んでいる若い方はどのような就職の傾向にあるのか、また戻ってきておいでなのか等を教えていただけたらと思います。</p>
<p>狩谷委員</p>	<p>Uターンは県が非常に力をいれており、I L A Cを中心に取り組みを進めておいでます。</p> <p>高校3年生の傾向としては、最近では少子化もあり、親元にて就職したいという方が多く、県の方も様々な機関と連携しながら、イベントを開いています。地元志向が高いですので、地元はそれにこたえることができる社会基盤を作っていく必要があります。高齢化が進むというと、高齢者の方々が増えるというイメージかもしれませんが、生産年齢人口が減っていくということが大きな問題意識としてあります。高齢の方も、社会に出たいという想いがあればそれにこたえていく社会であるべきでしょうし、また企業が活性化していくためには、高齢の方であったり、母子家庭の方であったり、そういった方に働く場を提供することで、地域が活性化していくビジョンであればと思います。</p>

<p>千田委員</p>	<p>最近は免許を返納される方も多いので、市としては、高齢者が自由に行き来できるように地域の交通基盤を整理されればもっと良いのではないかと思います。</p> <p>野々市市で2つの区画整理事業をされていることと思います。先日中林の方で入札がありましたが、不動産屋が販売する際の値段が高すぎる傾向にあるのではないかと思います。</p> <p>市も予算をしっかりとつけて、事業をしておいでと思うのですが、行政としても不動産の高騰を注視しながら、野々市市で住みたいが坪単価が高くて買えないので近隣市町に住もう、とはならないように管理して頂けたらと思います。</p>
<p>石川会長</p>	<p>それでは時間も迫ってまいりましたので、事務局にお返ししたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>司会 (木戸口課長)</p>	<p>長時間にわたりまして皆様から貴重なご意見ご提言をいただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、第2期「ののいち創生総合戦略」の策定についても御承諾いただき、ありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、令和元年度第1回 野々市市創生総合戦略推進会議を終わらせていただきます。</p> <p>委員の皆様、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。</p>